

保護者からパワーをもらい育まれてきたもの

～「平成」に感謝し、「令和」を迎える～

仲嶺 真弓

この4月は、平成天皇のお話がメディアを賑わせていました。西暦1989年「平成」の元号が発表されたときは、「へいせいって…？」と思った私でしたが、あらためて平成の30年間を振り返ると、平成という時代がいかに大切な時間だったかとしみじみと思い返します。国民に寄り添う皇室の在り方にこだわり続けた平成天皇と皇后。一つひとつの公務の場面でその思いが第三者の私も心打たれることが多くありました。4月はその場面をダイジェストに見ることができ、心からの感謝と慈しみの思いが湧いてきた平成の終末でした。

平成元年の私は何をしていたのかと思い起こすと、アトムと出会い働きだし、ただただ毎日子どもたちと遊ぶことを楽しみに働き始めたばかりの頃でした。けれど口下手な私は保護者と言葉を交わすことに緊張し、朝夕の送迎時が一番ドキドキする毎日でした。先輩保育士から「挨拶も自己紹介のうちだよ」と教えてもらい、お腹に力を入れ、できるだけ大きな声で挨拶することを心がける日々でした。そんな中、自分で考えた保育の取り組みを、子どもたちが目を輝かして楽しんでいることに手ごたえを感じ、次は何をしようかと保育を楽しむ自分もいました。保護者が何気にかけてくれる「これ仲ちゃんが作ったの?」「面白い取り組み考えてくれるなあ」「こないだの日報の内容、子どもの様子がよくわかって笑って来たわ。そんな感じでもっと書いて」などの言葉が嬉しく、その些細な出来事に大げさだけれど自分が必要とされていることもあるのだと、どこか救われた思いでいたことを今でも鮮明に思い出します。あれから32年という時代が流れました。先日4月28日に保護者OBが主催してくれた“旧アトム共同保育所保護者同窓会”に、私も参加させてもらいました。あいにく別件スケジュールと重なり、中途半端な参加になってしまったのですが、どうしても若かりし時代の私を見守りパワーをくれた保護者に感謝の思いを伝えたいと思い参加しました。あのドギマギしていた私が現在「園長」という役割を担っていることも伝えると、「え～、あの仲ちゃんが園長かあ」という声も…。そんな声があるのは当然のことで、未だに、一番不思議で仕方ないのは当の本人の私です。32年前の私からは想像もできない今の役職なのですが、そんな私でも「平成」という時代は、保護者からもパワーをもらいながら、私自身が人として成長させてもらえた大切な時代となりました。まだまだ成長途上ではありますが、「平成」の時代に感謝し、私にとって人生2つ目の時代(元号)の幕引きを目に焼き付けたいと思います。

さて、「令和」はどんな時代にしましょうか。4月は2クラスの懇談会に参加したのですが、保護者と職員が子どものことを通して語り合う情景が、昔も今も変わらず引き継がれていると感じ安堵しました。そして、この4月のスタートで感じたままの思いを赤裸々に語ってもらえたことに、保護者目線からも若い職員を育ててもらえていると感じ、とても有難く思いました。暖かく見守ってもらえることと、客観的に感じた意見を直接伝えてもらえること、この両方がある職員も育ちます。世間では、保育園は子どもを人質にとられているようなものだから言いたいことがあっても言えないという話もよく聞きますが、そういう次元の考えを持つ職員はアトム福祉会にはいないと自負しているので、どうか些細なことでも話してください。そういう話ができることが大人も育ち合えることができる第一歩です。次の時代も、引き継ぐべきものは引き継ぎ、その先に見えてくるものが何なのかを期待を込めて心待ちにしたいと思います。令和の時代も、つばさ共同保育園しおりの1ページの“「共同保育園」に込めた思い”を大切に引き継ぎ、子どもと共に大人も育ち合える場を大切にしたいと思います。

「共同保育園」に込めた思い

子どもを健やかに育てたい、出産後も働き続けたいと願う親と、そんな親の思いをしっかりと受け止める職員が、お互いに知恵と力を出し合って共に子どもを育てていける保育園にしたいとの強い思いを込めて「共同保育園」と名づけました。

大人同士の関係が希薄化して助け合いなどが困難になっている現在の状況を改善していきたいと強く願っています。園生活で子どもが色々体験しながら人として成長していけるためには大人がしっかりとした大人でなければ子どもの成長を止め、歪める結果にもなりかねません。

親、職員は子どもの成長を歪めることなく子どもが健やかに育つために努力をしましょう。人間関係、時にはイヤな事もあるでしょう。話し合うことが面倒だと思ふこともあるでしょう。しかし子ども達に大人同士の関係を見せてあげることが一番の教育になるのです。大人同士が安心して会話している風景をみて子どもは人への安心を感じるのです。ひとは模倣しながら人に育つのですから。

仕事をしながらの子育ては大変です。特に3歳までは子育てが一番大変でしんどい時期です。ましてや第一子の子育ては親にとっては初めてのことで不安が多いと思います。よく言われる『3歳までにしつけないと手遅れになる』『3歳までは親が育てるべき』などの不確かな『3歳児神話』に惑わされず、大変な時期を乗り越えましょう。園には多くの子育て応援団がいます。ひとりぼっちで悩まず、保護者同士がお互いを支え合う、子育てなかまになれるように職員はお手伝いします。

子どもたちを育てながら職員も育ちます。保護者もまた成長します。子育てをとおして大人も育ちあえるつばさ共同保育園にしましょう。

*共に子育てを担う仲間として職員のこと「先生」でなくニックネームで呼んでいただけるような関係を築ければと思っています。